

# 令和5年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

## 基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。新型コロナウイルスの影響で高校生活の3年間リモート授業や学校行事が中止または縮小する中で過ごしてきた影響で、コミュニケーションの機会が減り、個人主義が台頭した。進学後の学園では学内行事の充実を図り、失った期間を取り戻すべく、教育環境を充実することに注力した1年だった。

## 基準2. 学校運営

18歳人口減少が続く中、ファッション専門課程の在校生数は前年度とほぼ変わらず確保できたが、留学生は新型コロナウイルスの入国制限の影響を受け、デジタル専門課程の在校生数が減少し、厳しい予算編成となった。しかし、期中株式市場が日米ともに比較的堅調に推移し、保有金融資産の上昇による運用益により、学生数の減少による学納金不足を補うことができた。令和6年度の学生募集もリサーチと検証を重ね、新たな募集施策が効果を発揮し、大幅な出願者の確保につながり、令和6年度の安定経営の基盤を作ることができた。

## 基準3. 教育活動

SDGsへの理解を深めるため、SDGsの普及活動を行っているアイドルグループとステージ衣装製作で提携。ファッションメーカーから廃棄素材の提供を受けて、衣装を製作し、ライブ活動に於いてSDGsの普及活動と共に学生の理解を深めることができた。また、セルフブランディングの授業では、各界第一線で活躍している起業家、ビジネスパーソンを講師として招き、職業観、価値観、多様性を身につけることができた。

## 基準4. 学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイティブ科が受験するパターンメイキング検定3級は昨年に続き1年生は全員合格し、2年生も今回は全員合格した。検定に対する前向きな姿勢は継続している。2級は技術科の3年生は全員合格し、2年生の合格率は50%であった。ファッションビジネス科の1年生のファッション販売能力検定3級は合格率86%、昨年82%から上昇。2年生の3級は合格率36%、昨年の25%と低位ではあるが改善した。1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率43%、昨年30%から若干改善。2年生の2級は合格率20%、昨年27%とファッション販売能力検定同様に低迷している。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1、の合格率は87%、モジュール2は67%と高い合格率を確保した。産学協同プロジェクトでは、インナーメーカーの株式会社ハクタカと新たなインナーの提案を行い、マーケティング、リサーチから最終プレゼンテーションまで実践形式で学習す

ることができた。2月29日に開催した桜丘ファッションショーは5年ぶりに通常通りの開催で2回公演を行った。1回目の公演前には、アイドルプロデュース衣装製作で作成した、アイドルグループ青山ラビネスのステージ衣装をライブで公開し、ファッションショーを盛り上げた。また来場できない方々へ広く学習の成果をご覧いただくためInstagram LIVE配信を昨年に続き実施した。

#### **基準5. 学生支援**

1年生の32%、2年生の35%が奨学金や就学支援制度を必要としている。令和5年度も高等教育の就学支援新制度の認定を受けて金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来た。また、就職支援に関しても昨年に続き、会社説明会は、ほぼオンライン形式。1次面接もオンライン形式の企業が多く、学内施設、設備を使っての就職活動の支援を継続しておこなった。就職決定率は、技術科88%、ファッションクリエイト科及びファッションビジネス科100%（一部アルバイト採用含む）と大きな成果をあげた。

#### **基準6. 教育環境**

行動制限がなくなり、実践で活躍中の外部講師の招聘や企業見学、店舗リサーチなど学園内の机上での学習だけではなく、外部との接触の機会を大幅に増やすことができ、学習効果を上げることができた。デジタル環境の充実により、授業でのInstagram LIVE配信やeコマースの授業でのWEBサイトの開設など、より実践に即したデジタル教育が実践できた。

#### **基準7. 学生の募集と受入れ**

公式Instagramのフォロワー数が1万4千人を超え高校生に適時情報を伝える体制が整った。広報活動に於いても、学びやすい学費の設定、授業内完結型教育、アイドルグループとの提携によるステージ衣装の製作などを前面に打ち出し、ファッション専門課程では、出願者が前年比274%と好調。デジタル専門課程も紹介制度、指定校推薦制度の活用で出願者100%の充足を実現できた。

#### **基準8. 財務**

学納金のみでの学校経営の実現を目指して、第一には学生数の増加を実現すること。学生数に関しては令和6年度に向けて一定の成果を上げることができた。金融資産に於いては、資産効率を上げるべく、資産の入れ替えを実施。日本株式偏重型から米国株式、米国株式投資信託のウエイトを高めた。また株式偏重型から分散投資、安定資産へ資金をシフトした。米国株式、日本株式市場が堅調に推移したこともあり、資産内容の健全化を達成することができた。

#### **基準9. 法令等の遵守**

継続して、文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。また、日常ではAlrit Cloudを活用して迅速に情報を共有するシステムを活用している。学生のソーシャルメディアの利用に関しても昨年同様、ソーシャルメディアポリシーなどの作成により注意喚起している。

## 基準10. 社会貢献・地域貢献

学園がステージ衣装製作で提携しているアイドルグループがSDGsを分かりやすく伝える普及活動“ISDGsプロジェクト”に参加している。アイドルグループと協業することで学生のSDGsに対する理解を深めている。また、ファッションビジネス科が主体になり実施している神楽坂の市民文化祭“まち飛びフェスタ”への参加で手作り作品を展示販売し地域住民との交流を深めている。学年末には卒業学生作品展では、学生の作品を学内に展示し、近隣の方々が見学ができる期間を設けて、学園の教育活動への理解を深めている。